

知事とJR東海・金子社長との会談（概要）

長野県建設部 リニア整備推進局

1 日 時：令和4年2月10日（木）15：15～16：15

2 会 場：長野県庁 西庁舎3階 災害対策本部室（WEB会議）

3 概要

《挨拶》

○阿部知事

- ・今回も率直な意見交換の場をいただきましたこと、心から御礼申し上げます。
- ・過去6回にわたり、トップ会談をしてきている。その都度、私からも地域の課題、問題意識を伝え、問題意識を共有しながら事業を進めていただいていることに厚く御礼申し上げます。
- ・昨年、岐阜県の瀬戸トンネルの死亡事故から、あまり時間が経たない間に伊那山地トンネル坂島工区でも肌落ちによる労働災害が発生した。こうした事故が続くと、事業全体に対する不安感が増すことになりかねない。工事の安全対策について、引き続きしっかりと行っていただきたい。
- ・昨年7月に発生した静岡県熱海市の土砂災害以降、発生土に関して地域の皆様方の関心が高まっている。発生土の管理のあり方や、地域の皆様方への説明について、これまで以上に十分な配慮と対応をお願いします。
- ・これまで何度も申し上げており恐縮であるが、リニア事業の推進には、地域の皆様方の理解と協力が不可欠。我々も地域の皆様方のお考えや思いを把握させていただいて、JR東海の皆様方にお伝えしていきたいと考えている。ぜひ、双方向でキャッチボールをしながら、いい形で事業が進むよう取り組んでいきたい。
- ・地元の市町村長の皆様方とも意見交換をしていただいております。地域の声としても出ているが、静岡工区における様々な課題により、事業が大幅に遅れるのではないかと不安の声も出ている。1日の早い着工に向けてご尽力いただきたい。

●JR東海金子社長

- ・コロナ対応等お忙しい中、今年も知事と直接意見交換をさせていただくことに感謝する。また、中央新幹線計画の推進にあたり、日頃から長野県の皆様にはご支援いただき感謝する。
- ・昨年12月には、宇野副社長をはじめ、関係するメンバーが飯田に伺い、市町村長

の皆様と率直な意見交換をさせていただいた。これからも地元の皆様と意思疎通を密にして、ご理解いただきながら工事を進めていくことが大切と考えている。

- 昨年の岐阜県瀬戸トンネル及び伊那山地トンネル坂島工区の肌落ちによる労働災害により、ご心配をおかけした。再発防止にしっかり取り組むと共に、当社が中央新幹線の工事を請負う全ての施工会社と共に設置した「中央新幹線安全推進協議会」において議論を深め、各社共通の理解に立って、より強力に労働災害防止に取り組んでいきたい。
- 長野県内で着実に工事が進んできている。伊那山地トンネル青木川工区では、昨年9月には、長野県内初となる本線トンネルの掘削を開始し、中央アルプストンネル松川工区では斜坑掘削を開始した。また、明かり区間においては、天竜川の河川内で2基の橋脚のケーソン基礎の工事を始めている。今後ともペースを緩めることなく計画を推進していく。
- 観光については、新型コロナウイルスの影響で、私どもも進めることができていないが、収束後には、これまでのダメージを取り返すべく、しっかり取り組んでいこうと思う。
- 経営環境の厳しい中であるが、工事の安全、環境の保全、地域との連携を重視して計画を着実に進めていく。県をはじめ、地元の皆様におかれては、引き続きご協力を賜りたい。

《懇談概要》

【坂島工区の労働災害を踏まえた今後の対応】

○阿部知事

- 再発防止策について、県建設部にも話を聞かせていただいているが、現場でしっかり対応していただくことが一番大事。県内はもとより、全線すべての工区において対策を徹底していただきたい。また、ヤード内の作業や発生土の運搬など、一連の作業全体においても、考えられる最大限の安全対策を講じていただきたい。
- 新しく構築した緊急時の連絡体制が適切に運用されるよう、改めてお願いする。沿線の市町村、あるいは地域の皆様にとって、リニア事業は重要な関心事項である。事故が起きた自治体だけでなく、関係するところへ幅広くご連絡いただきたい。
- 発生土を運搬する際の交通事故等について、市町村には連絡をいただいているが、事案の内容に応じて地域の皆様に状況を説明していただくことが必要なケースもあると思う。安全第一でやっていただくことが基本であるが、事故等が生じた場合には、県を含む関係自治体にしっかり連絡していただき、必要なものについては住民の皆様にも説明をお願いしたい。

●JR東海金子社長

- ・労働災害の件については、ご心配をおかけした。私どももこうしたことで信頼を損なってはならないと強く思う。
- ・本社及び都県ごとに中央新幹線安全推進協議会を設置した。今回の労働災害もそうだが、内容を共有し、対策は他の現場でもしっかりとやっけていこうと意思統一している。建設会社もこの問題は自分の問題として重く受け止めており、私達も問題意識を共有して、しっかりと再発防止に取り組んでいかななくてはならないと思っている。
- ・新たに整備した連絡体制に基づき、しっかりと情報共有できる体制にしていきたい。
- ・発生土の運搬車両の交通事故等の際の連絡や説明の件についても、地元と連絡を取り合う中で、適切に対応していく。

【開業時期の早期明示及び県内工区の早期完成】

○阿部知事

- ・我々の立場でも、リニア関連道路の整備などに巨額の予算を投じており、リニアを活かした地域づくりという点でも、南信州、上伊那、木曾地域の皆様と一緒に考えている。開業時期が大きくずれると県が進めている事業にも大きな影響が出かねない。
- ・静岡工区について、引き続き関係者の皆様との協議を精力的に進めていただき、早期に課題解決を図っていただきたい。
- ・そのうえで、開業見通しをしっかりとたててスケジュールどおりに事業を進めていただきたい。
- ・長野県内の工事について、地元の皆様に工事の予定を明確に示していただきたい。
- ・発生土置き場やガイドウェイヤードにおいて、市町村で後利用を検討している箇所もある。工事の予定は事業のスケジュールに影響があるので、市町村の皆様とよく相談していただきたい。

●JR東海金子社長

- ・昨年 12 月 19 日の国土交通省の有識者会議において、「大井川水資源問題に関する中間報告」が取りまとめられた。
- ・中間報告では、トンネル湧水量の全量は大井川に戻すことで中下流域の河川の流量は維持されること、トンネル掘削による中下流域の地下水量への影響は極めて小さいことを整理していただいた。
- ・中間報告の中で、私どもの役割として、地域の方々に分かりやすく説明して、ご懸念を払しょくしていくこと、モニタリングとリスク対策を行ない、得られた情報を地域の皆様と共有しながら進めることが必要だということが示されており、私ども

もそのように進めていきたいと考えている。

- 長野県内の工事は、緩めることなくしっかり進めていきたい。
- 発生土置き場やガイドウェイヤードの後利用についても話を伺っており、個々の工事については、できる範囲で私どもの見通しも申し上げながら、調整させていただきたい。

【発生土置き場】

○阿部知事

- 冒頭申し上げたとおり、昨年の熱海市の土砂災害以降、地域の皆様方はこれまで以上に関心を持っている。
- 盛土の規模や構造、完成後の維持管理など、住民の皆様方が不安に感じている点は一様ではない。それぞれの地域や箇所において、住民の皆様方がどのような思いでいらっしゃるかしっかり把握していただき、そのうえで、住民の皆様方が安心、納得できるような盛土の計画を策定していただき、丁寧な説明をお願いしたい。
- 造成後の管理についても、特に安全に管理しなければいけないような箇所は、豊丘村の本山や戸中と同様、JR東海に責任をもって管理していただきたい。
- 発生土置き場の検討中の箇所について、スピード感を持って決定箇所を増やしていただきたい。その際には、住民の皆様方の理解や不安解消のため、情報公開と丁寧な説明をしっかりと行っていただきたい。
- 要対策土について、処分先の早期確保と、将来にわたる責任をもった適切な管理をお願いしたい。
- 発生土の関係もいろいろ課題があるが、地域の皆様方の不安に寄り添った対応をお願いする。

●JR東海金子社長

- 地元の方々には、過去の三六災害や昨年7月の熱海市の土石流災害によるご不安があることは十分に認識しており、丁寧な説明を心がけている。
- 盛土自体は広く使われている手法であり、しっかりした計画と施工、管理をしていけば安全な構造物であるが、知事がおっしゃったように、これまで以上にしっかり説明をしていく。
- 長野県には、発生土置き場の情報提供をいただき感謝している。発生土置き場の決定には、地元の皆様のご意向をお伺いし、しっかりと整理をしていく必要があり、手順を踏んで進めていかなければならないので時間がかかっているが、引き続き努力していく。
- 昨年10月から、中川村半の沢の道路改築事業において、準備工事を進めており、ご協力に感謝を申し上げます。

- ・要対策土は、二重の遮水シートで覆うなど、しっかりと対策を施せば周辺に影響が無いように施工できるものであり、将来も私どもが責任をもって対応していきたいと考えている。私どもの工事の中で使える部分では足りないので、公共事業での活用を含めて、最終的な活用先の斡旋をご支援いただきたい。

【工事車両の通行】

○阿部知事

- ・工事車両の運行と安全対策について、交通法規の遵守や、丁寧な地元対応を引き続きお願いする。
- ・大鹿村で大型車両の土曜日全面運休に関する請願が採択されるなど、地元の市町村から、観光シーズン等における土日祝日の工事車両の運休が求められている。ご検討いただきたい。

●JR東海金子社長

- ・工事用車両の運行について、いろいろご意見をいただいていることは承知している。地元車両の優先や、交通法規、交通マナーの遵守により、極力地元にご迷惑をおかけしないことが大切だと考えている。工区によっては、発生土の運搬車両をGPSを活用した車両検知システムにより管理するという取り組みも行っており、さまざまな形でご心配を解消できるよう取り組んでいく。
- ・観光シーズンにおける工事用車両の運行についても、以前から大鹿村ではイベントのある日を休工にするような取り組みをしているが、できるだけ対応していきたい。

【開業後の環境対策（騒音）への対応】

○阿部知事

- ・開業後の騒音対策について、地元の生活に支障が生じないように、最大限地元の意向に沿った形で対応いただきたい。

●JR東海金子社長

- ・個別の説明を重ねるなど、丁寧に対応してご理解を得ていきたい。

【丁寧な対応による地元の不安払拭】

○阿部知事

- ・今申し上げたようなことを含め、住民の皆様方は漠然とした様々な不安を感じている。極力丁寧な説明を繰り返し行っていただき、住民の皆様方の不安、懸念、課題に対し、引き続きしっかり向き合って丁寧な対応を行っていただきたい。
- ・少しでも住民の皆様方の不安や懸念が解消されるよう、引き続きお取り組みをいただきたい。

●JR東海金子社長

- ・丁寧な説明、早期の情報提供に努めて、地元の皆様のご理解、ご協力を得られるよう努力していく。

【停車本数及び在来線との接続】

○阿部知事

- ・開業時期が不透明である中で、地域の皆様方の理解と協力が得られる環境を作っていくことが重要だと考える。
- ・そういう意味で、これまで繰り返し要望しているが、リニア開業時には長野県駅へ上下それぞれ1時間に1本以上停車するということを表明していただくことで、リニア事業の推進に向けて一致結束し、機運が高まると思う。
- ・在来線との接続についても繰り返し申し上げているが、飯田線及び中央西線とスムーズな接続ができるようご検討いただきたい。
- ・飯田線の利便性向上、活性化についても引き続きのご尽力及びご協力をいただきたい。

●JR東海金子社長

- ・リニアの停車本数や、接続する在来線のダイヤ編成などについては、はっきり申し上げるのはもう少し後になってしまうが、地元の将来像が明るいものになるように盛り上げるような取り組みについては、私どもも協力していきたい。

【その他】

○阿部知事

- ・観光という面において、JR東海の皆様が本気で我々の地域を支えているというメッセージが伝わると、リニア事業の推進にもプラスの影響が出ると思う。引き続きのご尽力をお願いしたい。
- ・脱炭素社会の構築についても、一緒になってお取り組みいただきたい。
- ・南アルプスの環境保全について、自然保護を進めようと調整を進めていただいていると聞いている。具体的な形になるようお願いしたい。

●JR東海金子社長

- ・観光振興について、昨年もコロナが少し収まった時期に飯田線の秘境号を運行し、現在は、しなの鉄道、JR 東日本等と酒蔵を巡るラリーを行っている。このようにアイデアを出して盛り上げるような取り組みができれば良いと考えている。
- ・当社では、「いいもの探訪」というオンラインショップを運営しており、長野県の商品についても、現在約80種類の商品を取り扱っている。こういう形も含めて地元を盛り上げていきたい。

- 脱炭素は、私ども企業にとっても突き付けられている課題。私どもとしても、省エネと、カーボンを使わないという2つの観点からしっかり取り組んでいきたい。リニアに関しては、車両の軽量化や先頭形状の改良などにより、省電力化できる分野もあると思うので、しっかり取り組んでいきたい。
- 南アルプスの環境保全について、地域の方々が進められている森林整備や高山植物保護の取り組みを支援することで、当社としてより一層貢献していきたいと考えているので、引き続きよろしくお願ひしたい。